

龍谷大学アジア仏教文化研究センター ワーキングペーパー

No.17-10 (2018 年 3 月 31 日)

講演概要

Buddhist Nuns' Lives and Roles in Modern Myanmar

Thisar Nandi

(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科研究生)

※本ワーキングペーパーは、平成 30 年(2018)1 月 26 日に龍谷大学大宮学舎にて開催された、龍谷大学仏教文化研究所研究談話会(アジア仏教文化研究センター協力)「Buddhist Nuns' Lives and Roles in Modern Myanmar(現代ミャンマーにおける女性出家者の生活と役割)」における講演の概要である。講演の概要に加え、講演者により当日示されたスライドを掲載する。

【講演の概要】

ティサ・ナンディ氏は、ミャンマー語でティラシンと呼ばれる女性出家者である。ヤンゴン大学理学院を卒業後、21 歳の時にヤンゴンの Thuka Kari 寺院にて出家した。2009 年に国際上座部仏教宣教大学(ITBMU)に入学し、学士号および修士号を取得する 2015 年来日し、大阪 YMCA 日本語学校で語学研修を経て、現在、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の研究生である。

本報告は、企画者の那須英勝氏と川本佳苗氏の要望により、日本人にとって馴染みの薄いミャンマーの女性出家者へのイメージを把握しやすいように、多数の写真を紹介しながら発表された。報告内容は、①ティラシンの概要、②ティラシンの分類、③ティラシンに対するミャンマー人の見解、④当事者である報告者からのティラシンに対する見解、の四部から構成され、最後に結論で締めくくられた。まず、ティラシンの概要について、報告者はその語源および定義、歴史上最初のティラシンであるサヤー・キン、そしてティラシンと比丘尼との違いなどを解説した。第二のティラシンの分類として、学問寺院で仏法を学ぶ者、一般寺院で比丘達のサポートをする者、瞑想寺院で修行する者の三種を挙げ、いずれのティラシンとしても恒常的な出家者と一時出家者が含まれることを紹介した。また、ここで報告者は自身が所蔵する貴重な写真や録音を交えて、起床、朝の礼拝、托鉢、食事の様子など、ミャンマーの尼僧院での一日を紹介した。第三のティラシンに対するミャンマー人の見解については、上述した三種類のティラシンごとに一般的な意見を要約し、その上で、最後にティラシンとしての報告者自身の見解を述べ、続いて結論として、ミャンマー社会がもつティラシンの立場に関する課題などを論じた。

報告後に質疑応答が行われ、「なぜティラシン達は比丘尼にならないのか？」という質問に対して、報告者は、ミャンマー(や大半の上座仏教国)ではサンガが比丘尼の受戒を公認しておらず、比丘尼になりたくてもなれない現状があると回答した。他に、ミャンマーにおけるティラシンの人口などについての質問を受け、報告者は、一時出家者など寺院内の入れ替わりが激しいため、正確な統計の難しさを述べた上で、最近有名な女性歌手が引退して恒常的なティラシンとなったために、若い女性の間で出家希望者が増加した例を挙げた。

現代ミャンマーにおける 女性出家者の生活と役割

BUDDHIST NUNS' LIVES AND ROLES IN MODERN MYANMAR



SACCāNANDī
(THITSARNANDI)



経歴	
1983年	ヤンゴンに生まれる。
2004年	ダゴン大学理学部化学科卒業。 卒業後21歳のとき、Thukhakarni尼寺にて出家。Ywama学問寺院にて仏教を修学。 Dhammapada(『法句経』)、Kaccāyana(『パーリ文法書』)等々を素読・暗誦。
2009年	国際上座部仏教大学(ITBMU)入学
2015年	修士課程修了 来日。大阪YMCA日本語学院にて二年間、日本語を修学。
2017年	京都大学東南アジア地域研究研究科(ASAFAS)研究生。2018年現在に至る。 法歴14年。

目次

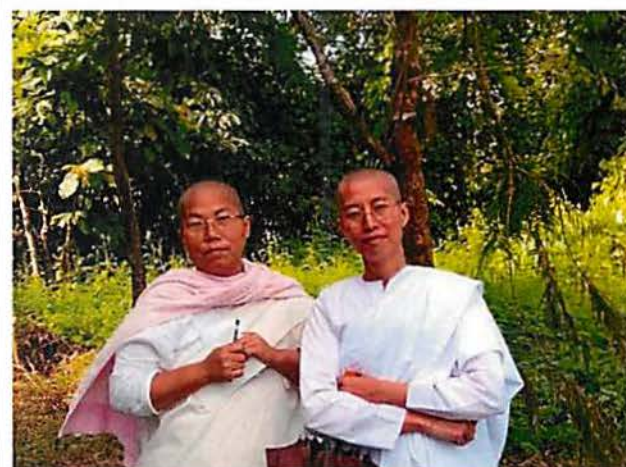
1. ミャンマー独自の女性出家者 ティラシン
 - 1-1. ティラシンとは? —その意味と起源
 - 1-2. ティラシンと比丘尼との違い
2. 三種類のティラシン
 - 2-1. 学問寺院のティラシン
 - 2-2. 一般寺院のティラシン
 - 2-3. 瞑想寺院のティラシン
 - *α. 一時出家のティラシン
3. ティラシンに対する一般人の見方
4. ティラシンとしての私の経験と意見
5. 結論

1-1. ティラシンとは? —その意味と起源

ティラシン(သီလရှင် / Thilashin)のティラ(ティーラ)は、パーリ語のシーラ(sīla / 戒)がビルマ語風に訛った言葉で、シンは「持つ者」の意。故にティラシンとは「戒を持つ者」「持戒者」という意味。

八戒を持つティラシンもいれば十戒を持つティラシンもある。しかし、日常生活では金銭を使わなければならないため、十戒を持つティラシンは極少数。そこで、十戒のうち「金銭に触れず、蓄えない」という戒を除く九戒を守るティラシンもいる。

ミャンマーのティラシンの歴史は、十九世紀のコンバウン王朝末期(1752-1885)のサヤー・キンという女性が出家したことからはじまったと言われている。ただし、サヤー・キンには出家の師がいたとも言われているが、その詳細は不明のため、現在はサヤー・キンこそがティラシンの嚆矢であると言われる。





1-2. ティラシンと比丘尼との違い

ティラシンは、伝統的な仏教徒の分類「七衆」の中には無い存在。
ティラシンは例えば、日本で近世まで存在していた、剃髪して八斎戒を守りながら寺院内に住み、袈裟に準じた衣を着ていた「近住」のようなもの。

ただし、近住はあくまで在家信者として扱われたが、ティラシンは出家修行者としてミャンマー社会およびサンガから認められ、存在している。

	比丘尼 (Bhikkhuni)	ティラシン (Thilashin)
戒律	八重法・三百十一戒 (vinaya)	八 / 九 / 十戒 (sila)
衣	五衣 (大衣・上衣・下衣・覆肩衣・新修羅衣)	① ガイトー(下着) ② インジー ③ ガイシェ ④ コーヨウン ⑤ カーウォ(ロンジー) ⑥ バコウンティン(袈裟に似た形の一枚布)
住持	原則毎日	週二回(月八日ある當日の前日)



2. 三種類のティラシン

現在、ミャンマーのティラシンには、大別すると三種類+αの
あり方があり、それぞれがやや異なった生活を送っている。

- 2-1. 学問寺院のティラシン
- 2-2. 一般寺院のティラシン
- 2-3. 瞑想寺院のティラシン
- +α. 一時出家のティラシン

2-1. 学問寺院に住んでいるティラシン



学問寺院に住んでいるティラシンは、下は五、六歳から上は二十歳代前半と、若い者がほとんど。
中には孤児であったり、貧困が原因で捨てられた子供もあり、何もわからずティラシンとなった者もあるが、学問寺院はそのような子達のための衣食と教育の場ともなっている。
出家者として仏教の勉強が主体だが、幼い者には読み書きや算数なども教えられる。



午前4時：起床・洗面



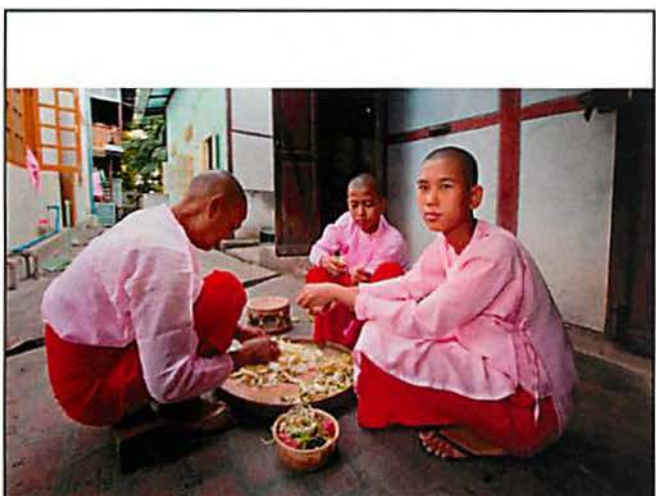
午前4時30分：勤行





午前6時半：托鉢(週二日)





午前11時： 昼食(必ず正午までに終わらせる)

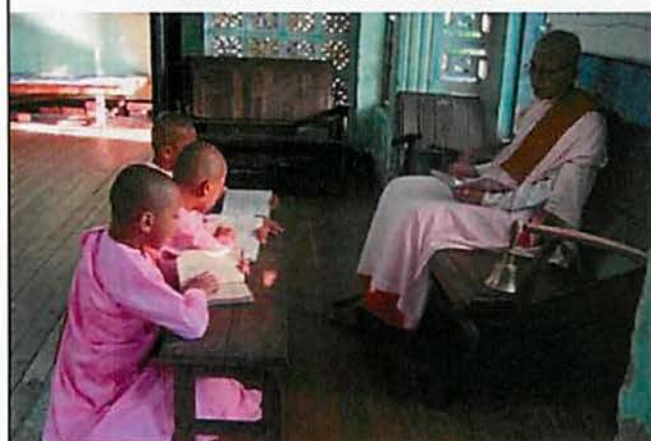




午後12時30分 : お昼寝



午後1時 : 先生について勉強



午後4時：掃除・植物に水やり・沐浴・洗濯



午後6時、夕方の勤行



読経後、先生の法話を聞く



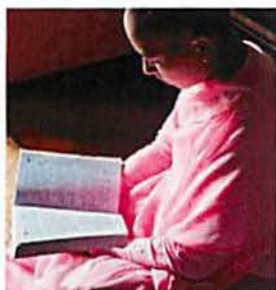
午後8時：自習・昼間勉強したことを復習



学問寺院では、*Dhammapa*(『法句経』)や*Abhidhammatthasāṅgaha*(『摂阿毘達磨藏論』)、*Kaccāyana*(『カッチャーヤナ パーリ語文法書』)など、多くの仏典をひたすら読み続け、それらを完全に暗誦しなければならない。

ほとんどの場合、仏典をまず暗誦して初めて、その意味内容が教えられる。

ただし、ジャータカの場合は暗誦する必要は無く、しかしその全てを読んで、その話の内容を知っておかなければならない。



午後10時30分：お休み（寝る）



2-2. 一般寺院に住んでいるティラシンたち

年を取ってティラシンが多い。毎日朝4時には起き、そのお寺のお坊さんたちのために炊事する。お坊さんたちに朝ご飯を出してから、自分たちも食べる。昼ごはんはお坊さんたちが托鉢で得たご飯やおかずなどを食べるため、お寺でご飯は炊かない。朝食のためのお金は住職からもらい、材料を市場で買う。



学問寺院のように勉強しないため、昼ご飯後は基本的に自由。
夜7時にはお寺のお坊さんたちと読経し、その後一時間瞑想。
午後九時か十時頃、就寝する。

2-3. 瞑想寺院のティラシン

瞑想寺院に住んでいる年齢は様々で、若いティラシンも年老いたティラシンもいる。比較的、茶色の衣を着たティラシンが瞑想寺院には多い。瞑想寺院では、瞑想修行の障害となるため勉強はできないとされる。



自分たちも瞑想するが、出家・在家の瞑想修行者たちの食事の世話、境内の清掃や、在家修行者が居眠りしているのを注意して起こしたり、住職の身の回りの世話などを行う。

瞑想寺院のティラシンと在家瞑想修行者たち



色々な尼寺から瞑想するため瞑想寺院に来ているティラシンたちと在家女性瞑想修行者達。特に安居期間中は多くの人が集まる。



+α. 一時出家のティラシン

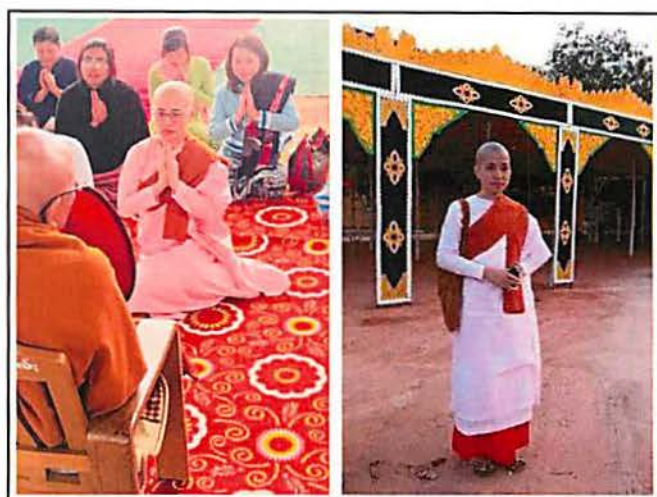
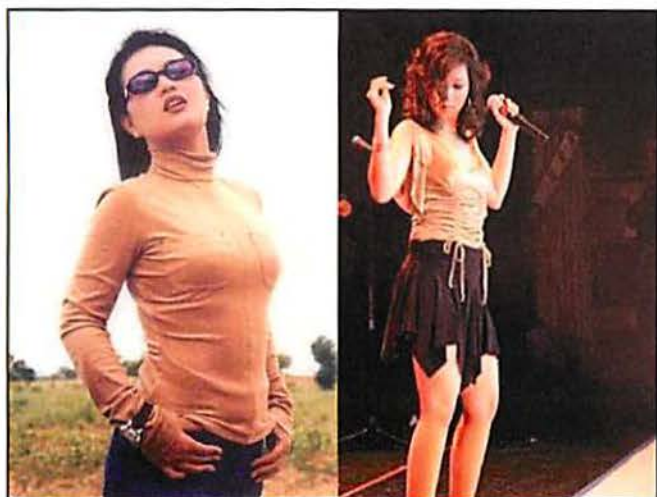
男女問わず、一週間から三ヶ月間のごく短期間だけ一時的に出家する者を、ミャンマーではドウツラバク(dullabha)という。Dullabhaとは「得難い」「まれ」を意味するバーリ語で、一時的であっても出家することは良いこととするミャンマー人の考え方が反映された呼称。



近年のミャンマーでは、年齢を問わず、そして一時的・恒常的を問わず、女性の間でティラシンとして出家したいという人が非常に多くなってきている。

例えば最近、非常に有名な女性歌手が突然ティラシンとして出家するといったことがあった。





1週間から3ヶ月だけの短期出家者:ドゥツラバ・ティラシンたち



3. ティラシンに対する一般人の見方

4. ティラシンとしての私の経験と意見

5. 結論